

※入試問題につきましては、テレビ埼玉の番組ホームページでご確認ください。

大問3 問5の改題

番組内では、この問題について、指定語句の「具体的」を第八段落から押さえて答えましたが、第八段落以外の「具体的」を用いて解答を作成しなさい。

(解答例は次のページ)

たとえば九段落の「**具体的**」を用いると次のように解答できます。

問5 **人類学は…四十五字以上、
五十五字以内…** (設問)

「**自然と文化**」という分け方が普遍的なものではなく、
自身の生存にかかわる他種との**具体的な緊迫した関係に目を向ける**
(五十五字)

という視角を与えてくれる。

傍線部④の直前に「つねに**具体的**な自然と人間、種間の関係に注目してきた**人類学**の研究は、こうしたより日常的で差し迫った『環境問題』に目を向け」と「**具体的**」という指定語句、そして、「**人類学**の研究は」という設問文の条件で押さえた「主語」もありますので、この箇所も解答に使えることが分かりますね。ちなみに、**右記の中に「こう」という指示語があります**ので、指示語が指し示す内容も押さえましょう。指示語が指す内容は基本的に直前にありますので、その内容を押さえると「**私たち自身の生存にかかわる他種との緊迫した関係**」を指し示していることが分かります。

そこで、指示語の指し示す内容を押さえたいうえで、一文の要点(主語・述語)をまとめると「**具体的**な」「**人類学**の研究は」「**私たち自身の生存にかかわる他種との緊迫した**」「**日常的で差し迫った『環境問題』**に目を向け(る)」となることが分かりますね。

では、解答の材料がそろいましたので、**第二段落で押さえた「普遍的」**の箇所と**右記の箇所**をまとめてみてください。その際、「**四十五字以上、五十五字以内**」という字数制限にも注意してください。

解答は右記のようにまとめられるとよいでしょう。

次の古文・漢文について、主語を□で囲み、述語には――線を引きなさい。

※文法上の主語・述語ではなく、意味のまとまりとしての主語・述語を答えましょう。

- ① 楚その莊王さうわう、詹何せんかに問ひて曰いはく
- ② 天下てんかの難事なんじは、必ず易やすきより作り、天下てんかの大事だいじは、必ず細こなるより作る
- ③ 福さいはひと禍わざはひと外ぐわいより来たるものにあらず
- ④ 暇いとまのなき人も、思おもひの外ぐわい、いと多おほき人よりも功こうをなすもの也
- ⑤ 雪ゆきのうちうちに春はるは来きにけり
- ⑥ 友ともとするににわるき者もの、七しちあり
- ⑦ 過あやまちは、やすき所ところになりて、必ず仕つかまつることに候まうふ
- ⑧ 晋しんの車胤しゃいん字あざなは武子ぶし、南平なんへいの人ひとなり
- ⑨ ものを引ひきのばいて、時失ときふ者ものありけり
- ⑩ 今いまは昔むかし、木きこり、山守やまのりに斧よこぎをとられて、「わびし、心こころうし。」と思おもひて、頬杖ほつづえうちつきてをり
- ⑪ 大雅たいが道人だうじんといひしは、をさなきより書画しよわを好このみて、あまねく天下てんかの名高なき名所なを見回みまわり、富とみ士しの山やまにもあまたたぎ登のぼる
- ⑫ あうむの他山たかに飛とびて集とむる有あり
- ⑬ 菓子かしをあきなふ新右衛門しんゑもんといへるは、少欲せうよく至直しちくにして、日ひごとに買かひ品の価あたいをあらそふ事ことなく、売うる人のいふまままにまかせてもとめければ

解答例

※文法上の主語・述語ではなく、意味のまとまりとしての主語・述語になります。
 解答は「例」ですので、完全に一致していなくても可です。

- ① 楚の莊王、詹何に問ひて曰はく
- ② 天下の難事は、必ず易きより作り、天下の大事は、必ず細なるより作る
- ③ 福と禍と外より来たるものにあらず
- ④ 暇のなき人も、思ひの外、いとま多き人よりも功をなすもの也
- ⑤ 雪のうちに春は来にけり
- ⑥ 友とするにわるき者、七あり
- ⑦ 過ちは、やすき所になりて、必ず仕ることに候ふ
- ⑧ 晋の車胤字は武子、南平の人なり
- ⑨ ものを引きのばいて、時失ふ者ありけり
- ⑩ 今は昔、木こり、山守に斧をとられて、「わびし、心うし。」と思ひて、頬杖うちつきてをり
- ⑪ 大雅道人といひしは、をさなきより書画を好みて、あまねく天下の名高き名所を見回り、富士の山にもあまたたび登る
- ⑫ あうむの他山に飛びて集むる有り
- ⑬ 菓子をあきなふ新右衛門といへるは、少欲至直にして、日ごとに買ふ品の価をあらそふ事なく、売る人のいふままにまかせてもとめければ